

tomorrow



【特集】
香港的日常生活見聞

town navigation
クルマで行く旅

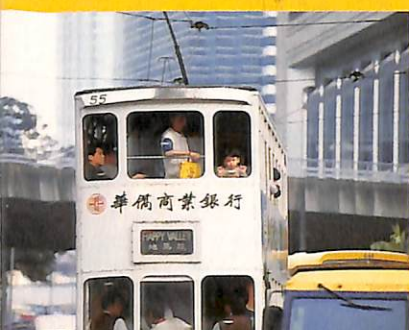
南紀、白浜。

tomorrow interview

石丸幹二

tomorrow
my
favorite
journey
No. 10

西村陽一郎=写真
編集部=文



HONG KONG, A DAY IN THE LIFE

香港のイメージというのはどういうものだろう。
きらびやかな摩天楼？ 香港ムービー？ それとも97年の返還？
たしかに、どれも「香港らしい」。
けれども香港にだって普通の人がいて、普通の生活がある。
メインストリートを、ほんの少し外れてみよう。
そうしたら、きっと普通の香港が見えてくる。

香港的日常生活見聞





WORLD ACCORDING TO THE WORKS OF GODS



線香も派手派手しい

tomorrow
my favorite journey
No. 10
香港的日常生活見聞

「困ったときの神頼み」なのか、香港の人々はとても信心深い。多くの神さまを奉り、縁起をかつぎ、占いを信じる。なかにはケチのかたまりで「お金だけが神様さ」とうそぶく香港人もいるけれど、そういう人にかぎって、商売繁盛、金儲けのためのお参りを欠かさなかったりするのだから憎めない。

MTRに乗って、黄大仙で下りてみる。駅を出るとすぐに、線香の煙に包まれてしまうはずだ。ここには「黄大仙廟」という、黄色と赤で彩られたエキゾチックな道教寺院がある。参拝客が多いのは、それだけ「有求必応（願いごとをかなえてくれる）」として有名なのだ。道教というのは古代中国の祖霊信仰がベ

ースにある多神教。これは、もともと現世利益を目的とするもので、ここで人々は願をかけ、占いをし、日々、生活するための指針を得る。彼らはまず、神前に祖先の霊への供え物を捧げる。豚や鶏を供える大がかりなものから、お菓子や果物の簡単なもので、願いごとの大小によつて品も変わる。12月ともなると、クリスマスケーキをお供えする老婆の姿もちらほら。だが、これはご愛嬌。

続いて、箆竹（せいちく）を上下左右にジャラジャラと振ると、そのうちの一本が飛び出てくる。箆竹の一本一本には番号が打ってあり、この番号を「黄大仙霊剣」という本に照らし合

わせれば、そこに託宣が記されているのだ。

実にちゃっかりしたものだが、この楽観的であつげらんとした生活哲学がまさに香港。そこにエネルギーッシュなこの街の秘密も隠されているのだ。

ただし、ここにはちよつとしたトリックがある。というのは、箆竹を振るのは1回だけとは限らない。何度も振って、そのつど番号を控えておく。そうして「黄大仙霊剣」を参照する際に、一番いい結果が出たやつを「ご託宣」として受け取るのだ。



廟の脇には占い師が軒を並べる。この人は劉明中先生。



黄大仙廟。老若男女、ひきもきらない



蠱惑之神仙世界



祖先にお供えをし、願をかける





YOU ARE WHAT
YOU EAT



tomorrow
my favorite journey
No. 10
香港的日常生活見聞

「食は香港にあり」というのは、よく知られている。なにしろ香港観光といえばグルメ。秋ともなると、旬の上海蟹めがけて香港を訪れるというツアーもあるくらいで、まちがいなく香港は、食べものに関してハズレがない。ハズレどころか、何を食べたって美味しいのだ。高級レストランやガイドブックに載っている有名な店でもなくともかまわない。むしろ、ちょっとした食堂や、そこそこの屋台の一軒一軒が、旅行者の舌と胃袋を刺激してやまない土地、それが香港なのだ。

一口に中華料理とはいっても、なにしろ「中華」は広い。地域ごとにスタイルも異なる。濃厚でこつりと油っこい北京料理、醤油ベースの

甘辛い上海料理、辛みをきかせた四川料理、そして香港の味でもあり、美味を極めたとして有名な広東料理など、日替わりで食べ比べができるのも、香港ならではの楽しみだ。だから、ここでは誰だって美食家になつてしまう。数日の滞在では食べつくせないほどの「美味しさ」が、街にあふれているのだ。

こうした食文化を支えているのが、食材の豊富さと新鮮さだ。公営マーケットでもいいし、その周辺にある青空マーケットでもかまわない、市場に一步、足を踏み入れれば、それは一目瞭然となる。

山と積まれたドリアンやスターフフルーツは、香ばしい熱帯の風を伝えてくれる。生きたニワトリやアヒル、食は広州にあり、心から願う、香港人になりたいと！



食在広州、但願長作香港人



人気馬、花花世界

EXCITING RACE IN HAPPY VALLEY!



香港人は競馬好きである。競馬新聞は、広東語版、英語版を含めて何紙も出ているし、レースのあった翌日、街のあちこちにある場外馬券売り場周辺には、はずれ馬券が風に舞っているのである。もともとはイギリス人の国民性として競馬好きというのがあるが、あきれた事実だが、大英帝国の支配を受けた地域には、必ずといっていいほど競馬場が存在する。もちろん香港も例外ではない。ハッピーバレー競馬場というのがあるので、狭い香港島にわざわざ造っただけあって、こぢんまりとしたコースだ。

競馬場の雰囲気は、おやじ率が高いのかというと、そんなことはなく、カップルや若い女性も多い。もちろん競馬なのだからギャンブルには違いないのだが、スポーツ観戦のノリに近い。わりと、のんびりしているのだ。そのあたりは、さすがイギリス式競馬。優雅さというものが伝統としてあるのだろう。

入場料は、一般席が10香港ドル、ツーリストならバスポートを見せれば入れる「会員和来賓」が50香港ドル。なにかと安心なのは後者で、なんとといっても階上席からバドックが見わたせるのがポイント。だが、あえて地元らしさを求めるのなら、一般席で観戦しよう。路上で買った競馬新聞を片手に、赤鉛筆を耳にはさめば、あつというまに香港人！馬券は、10香港ドル単位のマークシート方式で、種類はさまざま。

単勝、複勝、連勝複式、その他もろもろなので、上位の人気馬を単勝狙いという堅さでまずは攻めてみるのがおすすめ。

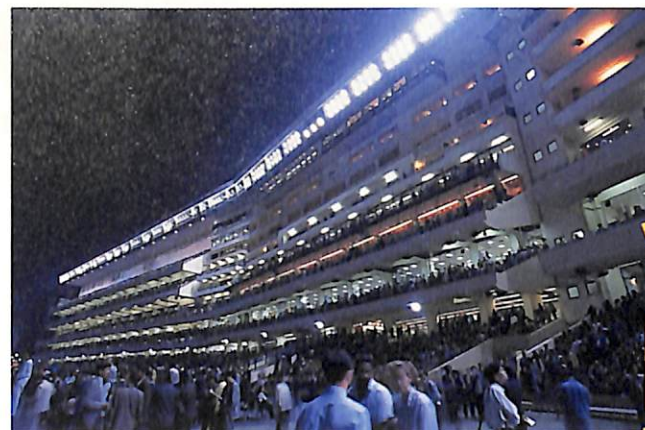
さあ、いよいよレース開始のベルが鳴る。各馬いっせいにスタート！コーナーを曲がって直線に入ると、観客席からは大きな喚声がわきおこる。となりの兄ちゃん「保羅威威！保羅威威！」と、大声で馬の名前を連呼していたが、その興奮が悲しげな「アイヤー！」に変わるのは一瞬のことであつた……。

夜風に吹かれながら、馬の着順に一喜一憂する人々の姿——それは、どこかで見たことのある、とてもなじみ深い風景だつた。

tomorrow
my favorite journey

No. 10

香港的日常生活見聞



シーズンは9月から6月中旬。レースは水曜の夜と週末の午後

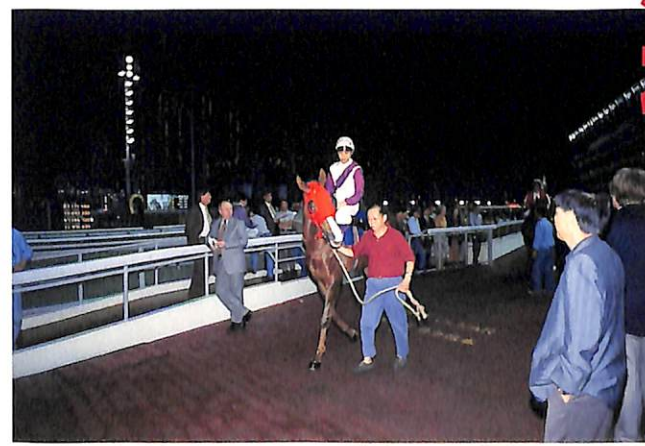


電光掲示板も広東語と英語の二重表記

今晚高額配当！ 熱狂於賽馬場！



遠くに高層住宅群の明かりが美しい



リーディング・ジョッキーはイギリス人が多い





One day トリップ 【トラムに乗ろう!】 GET ON A TRAM !!

香港島の北部、東のシャウ・ケイ・ワンと西のケネディ・タウンを結ぶ2階建ての路面電車が、このトラム。ほとんど「動く広告看板」といった趣を、まずはご覧あれ。企業広告がペインティングされた車体は見るだけでも楽しいが、なかなか便利なので、香港に来たからには一度は乗ってみたい。地元の人々に交じりながら2階席から眺める香港の町並みも、また面白い。

利用方法は、後方から乗り込んで、前方で降りる。料金は後払いで、一律1.2香港ドル(およそ20円)。おつりはもらえないし、その場での両替も難しいので、小銭の用意が必要だ。およそ200~300メートル間隔でトラム・ストップがあるので、下りたいポイントに近づいたら、じりじりと前方に(2階の人は1階に)移動すべし。ちなみに、2階へも後方の階段で上がり、前方の階段で下りるというルールがある。路線は3本あるが、それほど複雑なものではなく、東と西をつなぐ1本だと思って、まずさしかえない。ハッピーバレーへ向かう迂回路線に注意すれば、ほぼ安心だ。



波打つ床と、交差角度に設置されたエレベーター



凶相を避けるために、あえて裏側に置かれた獅子像



内部は吹き抜け構造になっている



香港上海銀行。47階建て、工費およそ50億ドル

「香港建築事情」 風水師のいる風景

ARCHITECTURE
WITH
FENG-SHUI MASTER

「風水」という言葉を「存じだろ」うか。このところ日本でも耳にする機会が多くなってきたが、要するに中国文化圏に古くから伝わる地相占いのことで、街の造りや、建物、住居の様子が、そこで生活する人々の命運を左右するという考えだ。だから家庭円満、商売繁盛のためには、どんな土地に、どういう家を建てるべきかということが大問題ともなるのだが、そんなときに頼りとするのが風水師である。

香港島の中心部、中環(セントラル)は、近代的な超高層ビルが立ち並ぶ地域で、アジアのビジネスシーンの中心でもある。けれども、そんなモダンなビル群であっても、風水を抜きにして語ることができない。たとえば、ひととき目立つデザイン(の香港上海銀行は、イギリス人建築家によって設計されたものだが、外壁の三角形の支柱は、当初、下向

中国銀行。70階建てのタワービル



シティバンク



リッポービル



LIFE DESK
SERVICE INFORMATION

■LIFE DESK 香港
TEL:2868-1981(電話番号が変更になりました)
電話受付時間 9:00~18:00
カウンター営業時間 9:00~17:00(年中無休)

近代的な高層ビルが立ち並ぶ、香港島の中心部、中環(セントラル)に、レセプションカウンターがございます。対応は全て日本語で承りますので、ぜひお立ち寄りください。このほか、シンガポールやオーストラリアなどにもLIFE DESKがございます。こちらの方面にご旅行の際も、ぜひご利用ください。

清蒸石斑

菜譜の楽しみ

テーブルについたとき、目の前に置かれるメニューを見るのがなによりうれしい。僕はすべての外国語が堪能というわけではないが、たいていの国のメニューは多少理解しているつもりだ。だが、ときにはメニューを見てイメージしていたものとちがったものが出てきて「これではなかったのに」なんてことがある。ひとりならば平気でいられるが、他の人と一緒にいるときは恥ずかしいおもしろいをする。

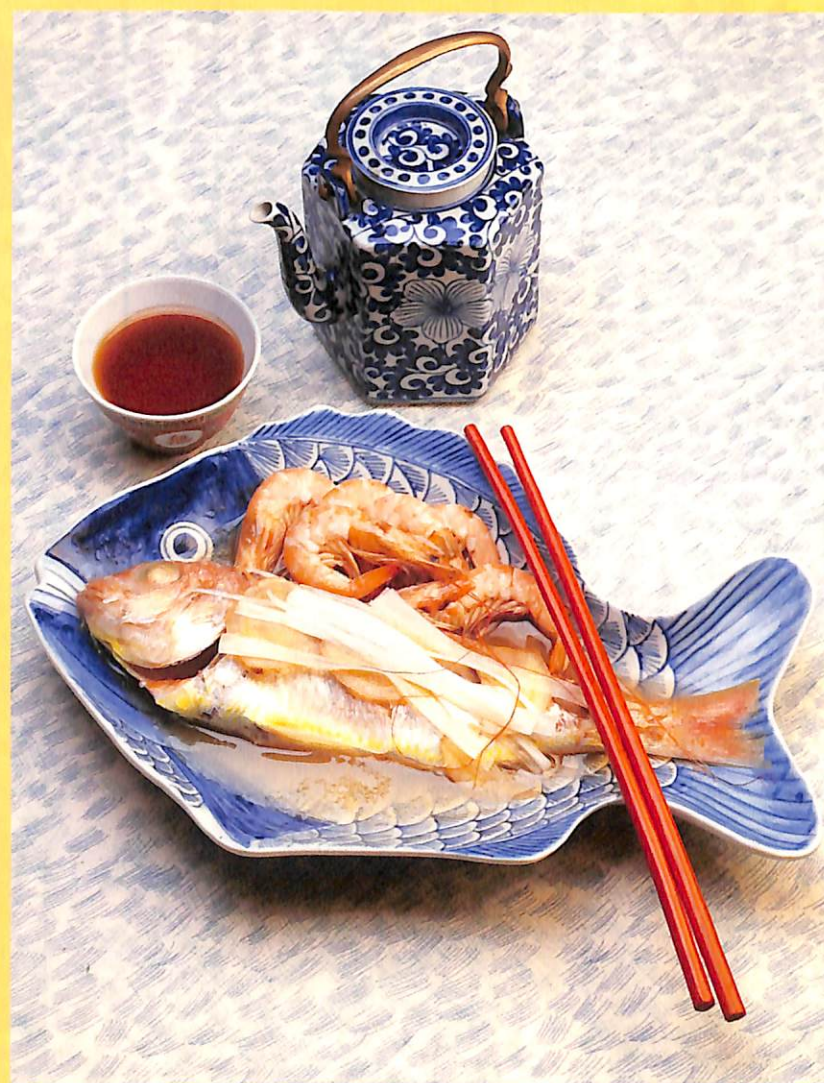
香港へ通うようになったのは二十数年も前、オーストラリアで六か月間ヨットを撮影し、帰りに寄ったのがはじまりで、その後十年、毎年出かけた。中国料理の深さに溺れ、いろいろな料理を食べながら名前を覚えた。メニューを見る。メニューは中国語で菜譜、もしくは単菜という。立派なところの菜譜は刺繍をした表紙つき。まあ普通のところはただ紙に印刷しただけのもの。ところによっては壁に紙を張り付けたり、それもないところまでとじつにさまざまだが、菜譜が読めたら楽しさが何倍にもなる。中国は漢字の国。その国からいろいろな文字を拝借した国に育った僕らは、漢字を見れば大体の見当はつくはずだ。が、意外な意味の違いに戸惑うことがある。中国では肉といえば豚。だが、猪とある。卵は蛋。等々。

料理の名前はさまざまな要素の組み合わせでできている。ネーミング方法でもっとも典型的なのは「青豆蝦仁」のようにふたつの材料を組み合わせたもの。これは青豆（グリーンピース）と剥きエビを炒めた料理だ。つぎに多いのは「葱焼牛肉」のように料理法と材料名をたしたもの。「魚香茄子」は味つけと材料名。「醬爆肉丁」は調理法と材料名。地名と調理法と切り方があらわされている「北京烤鴨」。変わったものでは人名と材料をたした「東坡肉」。使う材料の数と調理法からなる「八宝辣醬」。ほかにも料理のエピソードと材料名など、いろいろな命名法がある。調理法もまた数多くある。炒める、という意味合いのものだけでも炒（チャオ）、生炒（ション・チャオ）、滑炒（ル・チャオ）、干炒（ガヌ・チャオ）、抓炒（ジュア・チャオ）など。焼くというのと同じくらの数はある。さて今回の料理は「清蒸石斑」というものをアレンジした。これは石斑（いしもち）など白身魚を蒸した料理。今回は石斑のかわりに糸よりを使った。ちなみにこの名前は調理法と材料を組み合わせたものだ。

西川 治 旅する 胃袋 No.10

にしかわおさむ 写真家・文筆家
1940年生まれ。世界数十か国を旅して遊びと味に精通。ダイナミックな料理人としても評判が高い。著書多数。

文芸春秋料理部 西川治



<作り方>

1. 魚（白身魚、1尾）は鱗と内臓を取り、身に切り込みを入れる。蒸し器に入れるために血に置き、魚の上に葱（千切りにしたもの、1/2本）とショウガ（スライス2・3枚）を置く。エビ（5尾）も一緒に血に置き、酒（小さじ2）をふりかける。
2. 蒸し器を火にかける。湯気がでたら1の血を乗せて蒸す。魚に火が通ったら、蒸し器から皿ごと取り出し、醤油（大さじ1）をかける。
3. フライパンにごま油（大さじ2）を煙が出る寸前まで焼き、2の魚の上に注ぐ。

香港 ショッピング・ガイド

香港は言わずと知れた買い物天国。化粧品や香水から、チーフでキッチン小物まで、選択肢はさまざま。挨拶代わりのちょっとしたおみやげなら、おすすめは中国物産デパート。中国産の商品ばかりを扱う百貨店で、値段の安さにはやっぱり驚いてしまう。

※表示はすべて香港ドル。

1 香港ドルは、およそ16円（94年12月現在）。

- 1. おもしろい。レトロなパッケージがうれしい。HK \$50
- 2. かわいい神仙の人形。それぞれHK \$20
- 3. 古いマッチの図案をあしらったポストカード。それぞれHK \$8
- 4. 木彫りの動物たち。
亀はHK \$15、金魚はHK \$25
- 5. フレイバー・ティーのセット。HK \$53
- 6. 小さなティーセット。HK \$53
- 7. 古いグッズいろいろ。
左からHK \$6、HK \$10、HK \$5
- 8. 美人画のコスター（6枚セット）。HK \$82
- 9. キセル。象がHK \$40、鳥がHK \$30



ひと味かわった おもしろツアー

「もっと知りたい 香港4」
主催/JTBワールド

地下鉄利用の観光で香港の素顔に迫る3泊4日です。初日には湖南料理をご賞味いただきます。2日目、午前中は香港島観光（文武廟、キャットストリートなど）、午後は九龍島観光（黄大仙廟、旺角など）をお楽しみいただきます。3日目、4日目の午前中は自由行動。マカオ観光、競馬観戦など多彩なオプションツアーもご用意しております。
●出発日：3月中は毎日出発（最少催行人員2名）●ホテル：香港島地区のグランド・ハイアット、ニューワールド・ハーバービューなど
●旅行代金：145,000円～174,000円
※添乗員は同行いたしません。現地係員がご案内します。

○左記ツアーのほかにたくさんのツアーをご用意しております。日程、料金、出発日など詳しくは下記までお問い合わせください。また、本誌掲載込みハガキでもパンフレット（無料）のご請求ができますのでご利用ください。
●お問い合わせ先
〒101 東京都千代田区神田駿河台4-3 新お茶の水ビル18F
運輸大臣登録一般旅行代理店第3893号
株式会社ライフトラベルショップお茶の水
TEL: 03-3233-9119